

株式会社ダイキアクシス

2026年12月期 第2四半期 (中間期) 連結決算概要

PROTECT × CHANGE

2026年8月10日

1 | 2026年12月期中間期 連結決算概要

	2025年中間期	2026年中間期		2026年通期	
	実績	実績	前期比	予想	進捗
売上高	234.9億円	256.0億円	+9.0%	500.0億円	51.2%
営業利益	5.2億円	10.9億円	+108.2%	14.5億円	75.4%
経常利益	5.8億円	10.7億円	+82.5%	13.5億円	79.7%
親会社株主に帰属する 当期純利益	1.7億円	5.5億円	+215.0%	5.4億円	103.1%

2026年中間期の状況

- 売上高：住宅機器の大型工事案件進捗により増収。環境機器の地下水飲料化や海外事業、再エネも増収要因
- 営業利益：住宅機器の原価回収基準案件が完成、環境機器の各事業や再エネも大幅増益に寄与
- 中東情勢の影響等：当中間期は原材料や商品仕入価格の上昇、一部原材料や商品仕入の遅延等が発生も、適宜、販売価格への転嫁や各種コスト低減に努めた
 - 2026年通期業績予想：現時点で影響額を合理的に算定することが困難なため、業績予想に変更なし

2 | 2026年12月期中間期 セグメント別決算概要(環境機器)

 環境機器関連事業	2025年中間期	2026年中間期		2026年通期	
		実績	前期比	予想	進捗
売上高	122.1億円	124.9億円	+2.3%	255.0億円	49.0%
セグメント利益(営業利益)	9.4億円	11.3億円	+20.3%	21.8億円	51.9%
参考：経常利益	10.1億円	11.0億円	+8.3%		

2026年中間期の状況

- 国内：産業排水処理装置や浄化槽の販売・施工は前年同期の大型案件剥落により減収も、メンテ売上の増加により増収増益に
- 海外：インドで浄化槽出荷台数が増加し増収、各種コスト低減により営業損失額は改善
- 地下水飲料化：プラント販売が堅調に推移し、増収増益に。修繕も含めたメンテ売上高も堅調に推移
- 建物総合管理：ホームセンター店舗案件の新規受注に注力したことで売上高増加

参考情報

- 海外の状況【グループ決算への取込みは3ヶ月遅れであり、2026年12月期中間期の海外数値は2025年10月～2026年3月分】
 - インド：代理店販売に加え、商社やゼネコンとの取引も強化。工場での材料費削減や工数低減により生産安定化に寄与
 - インドネシア：浄化槽に加え工場系排水処理の受注にも注力。水質規制に対応した製品や高スペックな浄化槽の開発進める
 - スリランカ：引き続き現地政府や大学等への働きかけ、当社ブランドの浸透・強化を進めている
- 中東情勢の影響等：現時点において影響は限定的。当中間期は一部原材料の調達が不安定化。製品原材料や工事資材等の価格上昇は続いているが、適宜、製品販売価格や工事受注価格等への反映を進めている。

3 | 2026年12月期中間期 セグメント別決算概要(住宅機器)

 住宅機器関連事業	2025年中間期	2026年中間期		2026年通期	
		実績	前期比	予想	進捗
売上高	97.4億円	114.1億円	+17.1%	210.0億円	54.3%
セグメント利益(営業利益)	3.5億円	6.0億円	+72.9%	6.8億円	89.2%
参考：経常利益	3.8億円	6.5億円	+67.7%		

2026年中間期の状況

- 住設販売・流通：建設関連業者向け販売は、ホテルやマンション等の大型案件が寄与し、売上高は前年並みに。
ホームセンター向け販売もDCMグループの店舗数拡大に合わせ、納品先の拡大に注力したことで増収に
- 建築・設備工事：冷凍冷蔵・空調設備工事、体育館の輻射熱冷暖房工事や木構造事業といった環境配慮型商材、教育施設関連など、各分野で堅調に受注・施工が進み売上高は増加
- セグ利益：完成まで利益認識を伴わない原価回収基準を適用していた複数の大型案件が完成し、大幅な増益に

参考情報

- 中東情勢の影響等：現時点において影響は限定的。当中間期は一部商品や資材の仕入メーカーで受注停止や出荷制限が発生した。
商品仕入価格や工事資材等の価格上昇は続いているが、適宜、商品販売価格や工事受注価格等への反映を進めている。

4 | 2026年12月期中間期 セグメント別決算概要(再エネ)

 再生可能エネルギー 関連事業	2025年中間期	2026年中間期		2026年通期	
		実績	前期比	予想	進捗
売上高	12.4億円	15.4億円	+24.0%	31.6億円	48.9%
セグメント利益(営業利益)	0.3億円	1.3億円	+355.5%	3.0億円	46.6%
参考：経常利益	0.1億円	1.0億円	+503.2%		

2026年中間期の状況

- 太陽光発電：FIT及びPPAの発電量は堅調に推移。グリーンデータセンター2サイトが2026年3月より稼働し、売上高・利益増に貢献
- 風力発電：FITによる売電売上高は堅調に増加
- バイオディーゼル燃料：東日本・日光エリアでの燃料販売増加により売上高増加に寄与
- 水熱処理：水熱処理装置の実機販売を受注・納入中、一部を売上計上したことで売上高大幅増

参考情報

- グリーンデータセンター：再生可能エネルギーである太陽光発電を主な電力源としたデータセンター
2026年6月30日「[三社共同で再エネを活用した次世代グリーンデータセンター事業を始動](#)」
- バイオディーゼル燃料：従前より事業展開していた愛媛に加え、需要の多い関東地方での事業展開を推進中

5 | 2026年12月期中間期 セグメント別決算概要(その他)

 その他 (家庭用飲料水事業・ ベンチャーキャピタル事業)	2025年中間期	2026年中間期		2026年通期	
		実績	前期比	予想	進捗
売上高	2.8億円	1.5億円	△46.4%	3.4億円	45.0%
セグメント損失(△)(営業損失)	△0.2億円	△0.3億円	—	△0.4億円	—
参考：経常利益	△0.5億円	△0.2億円	—		

2026年中間期の状況

- 家庭用飲料水事業：
 - アクシスウォーターの拡販に注力・経営資源を集中させることを目的として、2026年1月5日付で、ボトル型ウォーターサーバー事業を新設分割会社である株式会社クリクラ愛媛に承継させ、同新設会社の全株式を株式会社ナックへ譲渡
 - ボトル型及び他社製全自動型ウォーターサーバーから「アクシスウォーター」への移行、新規契約者の獲得を進めたことで契約数は順調に増加

参考情報

- 家庭用飲料水事業：アクシスウォーターはサブスクモデル(ストックビジネス・定期定額)のため、ボトル型に比べ顧客売上単価は減少も、今後の契約数増や継続的な改善・サービス提供により、収益のさらなる積み上げを企図
- ベンチャーキャピタル事業：2号ファンド(DAVPベンチャーTF for SUSTECH投資事業有限責任組合)を2025年1月に組成
1号ファンド(DAVPベンチャー1号投資事業有限責任組合)と合わせて計12社への投資を実施中